

犬ヶ岳・津民川地域の自然を考える

犬ヶ岳・津民川地域は、昭和25年(1950年)に指定された耶馬日田英彦山国定公園地域内にあり、侵食地形がもたらす独特の風景が「名勝耶馬溪」のすぐれた景勝地をつくっています。

また、自然志向の高まりとともに、登山者を中心とする利用者も年々増えており、観光と自然環境との調和を図っていくことも大切です。

そこで、犬ヶ岳・津民川地域の自然について、その保護と利用のあり方についてみんなで考えてみましょう。

崖と露岩のおりなす特異な岩峰群と静かな田園風景

犬ヶ岳・津民川地域は、北側に英彦山が最高峰として控え、そこから東西に犬ヶ岳、経読岳、雁股山、大平山が広がり、その稜線は大分県と福岡県の県境となっています。こうした山々は、尾根や山頂にかけては全体的に平坦な地形ですが、ところどころに岩石の露出した切り立った岩峰がみられ、犬ヶ岳の東側に位置する^{おいづるいわ}笈吊岩や^{ことうげ}古峠から望む^{のこいわ}鋸岩はその代表です。これらの岩峰群がつくる特異な景観は「名勝耶馬溪」として国の指定も受けています。

そうした地形は、450～560万年前の火山活動で噴出した凝灰岩や凝灰角礫岩からなり、長年の浸食によってその凝灰質の部分を取り除かれ、奇岩・奇峰で特徴づけられる耶馬溪式風景を形作っています。

また、「名勝耶馬溪」に含まれる岩峰群と静かな田園風景が一体となって、津民の里の風景を織りなしています。

こうした景観は、自然が長い年月をかけやっと作り上げたものです。それを貴重な財産として守っていくためには、多くの動物と植物が息づいていることで豊かな自然が保たれていることに目を向ける必要があります。



笈吊岩の岩峰

多様で豊かな植物

犬ヶ岳山系の維管束植物(シダ植物、種子植物)は、全域を通じて自然林が狭い割には120科778種で、多くの種類が確認されています。そのうち、耶馬日田英彦山国定公園の指定植物が59種、「環境省編レッドデータブック」記載種16種、「レッドデータブックおおいだ」記載種76種があげられるなど多くの貴重種が生育していることが判明しています。一方で自然志向の高まりとともに利用者も増加しており、踏みつけによる生育地の破壊やゴミ投棄等をしないよう利用者も注意していくことが大切です。

森の機能をよみがえらせる自然林の回復と保全

犬ヶ岳山系には、国指定天然記念物となっているツクシシヤクナゲ自生地や岩壁近くに立つ特殊な森林とされるヒノキ群落、溪谷林としてシオジ群落が残っています。ところが長年にわたる伐採・植林等の人間活動や近年の台風、集中豪雨の影響で、自然林は荒廃してきています。犬ヶ岳山系は険しい地形で、災害を防ぐためにも自然林は極力保全することが必要です。

動物にとっても暮らしやすい自然環境

水の中に生きる生物

津民川流域には生きた化石「ムカシトンボ」が生息しており、流域の自然や安定した河床が守られることが必要です。そのため護岸工事など行うときも生息環境の保全を考えることが大切です。

豊かな自然林の中で生きる生物

自然林はシカやイノシシなどの哺乳類や鳥類、昆虫など、多くの動物たちの住みかであり、自然林を保全することは動物を守ることに भी なります。特に生態系の頂点に立ち絶滅危惧種でもあるオオタカなどの猛禽類が生きるためには、それをささえるシジュウカラやヒヨドリ、アオバト、ホオジロ等の留鳥類が豊富であることが必要であり、そのためには広葉樹を中心とする自然林が草本から低木、高木にかけ豊かに広がっていなければなりません。



犬ヶ岳の南側で目撃されたクマタカ

まとめ

みなさんも森を始めとする自然がとても大切なことに気づかれたでしょう。一方で自然の豊かさ、すばらしさを知っていただくため、多くの方々の積極的な利用が望まれるところです。そのためにはどうしたらいいのでしょうか。みなさんで話し合ってみてください。自然の保護と賢い利用、それはとても大切な問題です。